

地球環境論：グループワークの実施について

1. グループディスカッション（5月22日2限@C2-201）

- 履修者を9名程度の班に分け、与えられたテーマについて各班で討論する。
- 議長，書記，発表役，質問役などを決める。
- 各自の意見を表明したあと，班ごとに合意を形成するように議論を進める。したがって各自が事前に下調べを行い，持論を固めてからGDに臨むこと。
- GDのテーマ：以下のテーマについて班ごとに統一された「提言」を行って下さい。単に世間で言われている諸説を並べて比較するのではなく，科学的なデータに裏打ちされた，野心的かつ論理的な結論を高く評価します。
 - A. 「日本において原子力発電所はどの程度稼働させるべきか？」
 - B. 「温暖化に伴う風水害の頻発化に対応する社会基盤整備とは？」
 - C. 「気候変動緩和のために有効な方策とは？」
- 【事前準備】新聞や書籍などを用いて背景や現状を調査しておくこと。
【切り口の例】科学的根拠，経済的優位性，市民感情，政治状況，…
【合意形成】上記主題に対して班ごとに統一された結論を出すこと。
- 5/22当日はTA2名（修士課程の鈴江洋太君，多田拓晃君）がアドバイザーとして協力します。

2. 発表会準備（5/22～6/12，適宜）

- 必要に応じて班で集まり，発表会の準備をする（講義時間外）。

3. グループディスカッション発表会（6月12日2限@C2-201）

- 発表会では各班5分以内で討論の内容を説明し，3分程度の質疑応答を行う。
- 発表は口頭のみ，スライドなどは用いない。
- 発表者は1～4名程度にしぼった方が良い。また，発表の終わった班から最低1つは質問をすることを義務付けるので，質問係を決めておくと良い。
- レポートの内容に加え，GDおよび発表会（他班発表に対して質問したかどうか）において積極性であったかどうかにも重点をおいて評価します。

4. レポート提出（6月26日2限）

- 討論内容を各自がまとめ，全員レポートとして提出する。分量の目安は1,200字程度。GDにおける役割分担，議論の進め方，議論の内容，合意形成の方法，結論，感想，班の意見と自分の意見の相違点などを記述する。
- 学番，氏名，班名を必ず明記すること。